

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報		概要
		種類、号数等	発表日時	
阿蘇山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	降灰予報	30 日 00 時 52 分 30 日 03 時 05 分 30 日 09 時 03 分	噴火に伴い、降灰が予想される地域を発表。
		火山活動解説資料	25 日 19 時 10 分 26 日 17 時 30 分 27 日 16 時 30 分	噴火及び地震や微動、地殻変動等火山活動の状況。 降灰の範囲等、現地調査の状況。
霧島山(えびの高原(硫黄山)付近)	火口周辺警報 (火口周辺危険)	解説情報第 5 号～12 号	4 日、7 日、10 日、 14 日、17 日、21 日、 25 日、28 日 16 時 00 分	地震回数等火山活動の状況。現地調査の状況
蔵王山	噴火予報(平常)	解説情報第 2 号	20 日 10 時 00 分	19 日に発生した火山性微動及び地震回数等火山活動の状況。
		火山活動解説資料	20 日 17 時 30 分	20 日に実施した上空からの観測結果。火山性微動及び傾斜変動の状況。

注) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

この他、三宅島においては毎日 07 時と 17 時に火山ガス予報を発表している。

## 各火山の 11 月の活動解説

### 【北海道地方】

#### 雌阿寒岳 [噴火予報(噴火警戒レベル 1、平常)]

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

全磁力連続観測によると、ポンマチネシリ 96-1 火口南側の地下で温度の上昇した状態が継続している可能性がある。今後の火山活動の推移に注意が必要である。

#### 十勝岳 [噴火予報(噴火警戒レベル 1、平常)]

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

ここ数年、山体浅部の膨張や大正火口の噴煙量増加及び地震増加や火山性微動の発生、発光現象などが観測されている。今後の火山活動の推移に注意が必要である。

#### 樽前山 [噴火予報(噴火警戒レベル 1、平常)]

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

山頂溶岩ドーム周辺では 1999 年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

アトサヌプリ [噴火予報(平常)]

大雪山 [噴火予報(平常)]

倶多楽 [噴火予報(平常)]

有珠山 [噴火予報(噴火警戒レベル 1、平常)]

北海道駒ヶ岳 [噴火予報(噴火警戒レベル 1、平常)]

恵山 [噴火予報(平常)]

### 【東北地方】

#### 八甲田山 [噴火予報(平常)]

「平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震」以降増加していた八甲田山周辺の地震は、2014 年 2 月頃から減少し、今期間も少ない状況で経過した。2013 年 4 月から 7 月にかけて増加した、大岳山頂直下の地震活動は低調ながら継続していることから、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

#### 岩手山 [噴火予報(噴火警戒レベル 1、平常)]

火山活動は低調に経過した。火山性地震が一時的に増加することもあるが、その他の火山活動に変化はなく、噴火の兆候は認められない。

#### 秋田駒ヶ岳 [噴火予報(噴火警戒レベル 1、平常)]

女岳では、2009 年から拡大している噴気や地熱域が引き続きみられる。地震活動は低調で、地殻変動及び噴気活動にも変化はみられないが、地熱活動が継続しているため今後の火山活動の推移に注意が必要である。

#### 蔵王山 [噴火予報(平常)]

18 日から 19 日にかけて火山性微動が 4 回発生した。19 日 21 時 49 分頃に発生した微動は、これまで発生したものの中では規模の大きいも

のであった。18 日 15 時 13 分頃に発生した最初の火山性微動の直前には、傾斜計<sup>1)</sup>で南東（山頂の南側）上がりの変化が始まり、その後緩やかに 24 日までみられた。24 日以降はわずかな東（山頂の南東側）上がりになり 30 日まで継続した。

20 日に陸上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、御釜周辺に噴気及び地熱域はみられず、湖面に変色等の変化も認められなかった。GNSS<sup>2)</sup>による地殻変動と噴気活動に特段の変化はみられない。

2014 年 8 月以降、火山活動の高まりがみられ、過去の活動期には、突発的な噴気孔の生成や、火山ガスの噴出等の現象があったことから、登山等で火口に近づく際には十分注意が必要である。

#### あづまやま **吾妻山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]**

火山性地震がやや多い状況で経過した。大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いている。

大穴火口等では火山ガスの噴出がみられるので警戒が必要である。また、大穴火口の風下側でも火山ガスに注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

いわきさん  
岩木山 [噴火予報 (平常)]

あきたやけやま  
秋田焼山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

ちょうかいさん  
鳥海山 [噴火予報 (平常)]

くりこまやま  
栗駒山 [噴火予報 (平常)]

あだたらやま  
安達太良山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

ばんだいさん  
磐梯山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

#### **【関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島】**

##### くさつしらねさん **草津白根山 [火口周辺警戒 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]**

4 日から 5 日及び 10 日から 11 日に実施した現地調査では、北側噴気地帯及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面で引き続き明瞭な噴気が確認されたが、前回(2014 年 7 月 10 日)調査時と比較して特段の変化は認められなかった。

3 月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が、消長を繰り返しながら多い状態が続いていたが、8 月 20 日以降やや少ない状態で経過している。GNSS<sup>2)</sup>連続観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が認められている。

東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられている。また、全磁力観測による 5 月以降の湯釜近傍地

下の温度上昇を示すと考えられる変化は、7 月以降停滞している。

湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>3)</sup>に警戒が必要である。噴火時には、風下側で火山灰や小さな噴石<sup>3)</sup>が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

#### あさまやま **浅間山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]**

火山活動に特段の変化はなく、山頂火口から 500m を超える範囲に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。ただし、山頂火口から 500m 以内に影響する程度の噴出現象は突発的に発生する可能性があるため、火山灰の噴出や火山ガス等に警戒が必要である。

#### みだかはら **弥陀ヶ原 [噴火予報 (平常)]**

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過した。

立山地獄谷では以前から熱活動が活発に継続しており、この付近では火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

#### おんたけさん **御嶽山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 3、入山規制)]**

遠望カメラ等による観測では、白色の噴煙が火口縁上 100~300m の高さで経過している。

山麓で実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は、1 日あたりおよそ 100~200 トンとやや少ない状態で推移している。

火山性地震は少ない状態で経過しているが、8 月以前の状況には戻っていない。21 日 03 時 07 分頃及び 16 時 12 分頃、22 日 14 時 55 分頃、23 日 19 時 25 分頃にいずれも振幅の小さい火山性微動が発生した。遠望カメラ等による噴煙などの状況、傾斜計<sup>1)</sup>などのその他の観測データにはこれらの微動の発生に伴う特段の変化はみられていない。

国土地理院の GNSS<sup>2)</sup>データの解析によると、長期的には 9 月上旬頃から御嶽山を挟む基線でごくわずかな伸びがみられ、また、9 月下旬からごくわずかな縮みの傾向がみられている。

火山活動には低下傾向がみられるものの、今後も小規模な噴火が発生する可能性がある。また、噴気活動や地震活動等が活発化する場合には、火口周辺に大きな噴石<sup>3)</sup>を飛散させ、火砕流を伴うような噴火となる可能性がある。

火口から 4 km 程度の範囲では大きな噴石の飛散や火砕流に警戒が必要である。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石<sup>3)</sup>が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意が必要である。また、降雨時には土石流の可能性があるので注意が必要である。

#### **富士山** [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

2011 年 3 月 15 日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、地震活動が活発な状況となっていたが、その後、地震活動は低下してきている。その他の観測データでも浅部の異常を示すものはない。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

#### **伊豆大島** [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

GNSS<sup>2)</sup> 連続観測では、地下深部のマグマの供給によると考えられる島全体の長期的な膨張傾向は、2011 年頃から鈍化していたが、2013 年 8 月頃から再び膨張傾向がみられる。その他の観測データには特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

山体の膨張が継続していることから、今後の火山活動に注意が必要である。

#### **三宅島** [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013 年 2 月以降はやや少量となっている。

火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されなかった。

GNSS<sup>2)</sup> 連続観測によると、2000 年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013 年頃から停滞している。島内の長距離の基線でも 2006 年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続している。

今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では火山ガスに警戒が必要である。

#### **西之島** [火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報]

海上自衛隊等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認されている。

14 日に独立行政法人産業技術総合研究所が実施した上空からの観測によると、顕著な火砕丘

が成長し、その頂部には明瞭なすり鉢状の火口（確認された火口は 1 箇所のみ）が形成されていた。火口では間欠的に火山灰を含む灰褐色の噴煙とともに溶岩片を噴出するストロンボリ式噴火が発生していた。また、溶岩流は火口から北側に流下していた。先端は複数に分岐して北西から北東の海岸に達し、海水に接した場所では白煙を上げていた。

変色水域は、確認されていない。

東京大学地震研究所が父島に設置している空振計の観測結果によると、13 日から、西之島が連続的に噴火し活動が活発化していることを示す空振データが観測されている。小笠原村役場によると父島島内で鳴動が聞こえ、空振が感じられているとの報告もある。また、東京大学地震研究所によると、衛星画像の解析により 11 月 9 日には島の大きさは東西 1.6km 南北 1.8km、面積はおよそ 2 km<sup>2</sup>となっていた（10 月 16 日：1.85 km<sup>2</sup>）。

西之島では、今後も噴火が続くおそれがあるため、西之島の中心から概ね 6 km 以内の範囲では噴火に警戒が必要である。また、周辺海域では浮遊物に注意が必要である。

#### **硫黄島** [火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報]

火山性地震の発生はやや少ない状態で経過した。火山性微動は時々発生した。

GNSS<sup>2)</sup> 連続観測によると、地殻変動は 2014 年 2 月下旬頃から隆起の傾向がみられていたが、9 月頃から停滞の傾向となっている。その他の観測データに特段の異常は認められない。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生している。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火が発生している地点（ミリオンダラーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では噴火に警戒が必要である。

#### **福徳岡ノ場** [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

26 日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、福徳岡ノ場付近の海面で火山活動によるとみられる変色水は認められなかった。

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福徳岡ノ場では長期にわたり火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010 年 2 月 3 日には小規模な海底噴火が発生している。

今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に警戒が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

なすだけ  
那須岳 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]  
にっこうしらねさん  
日光白根山 [噴火予報 (平常)]  
にいがたやけやま  
新潟焼山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]  
やけだけ  
焼岳 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]  
のりくらだけ  
乗鞍岳 [噴火予報 (平常)]  
はくさん  
白山 [噴火予報 (平常)]  
はこねやま  
箱根山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]  
いずとうぶかさんぐん  
伊豆東部火山群 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]  
にいしま  
新島 [噴火予報 (平常)]  
こうづしま  
神津島 [噴火予報 (平常)]  
はちじょうしま  
八丈島 [噴火予報 (平常)]  
あおがしま  
青ヶ島 [噴火予報 (平常)]

## 【九州地方及び南西諸島】

### 阿蘇山 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

中岳第一火口では、25 日 10 時 11 分に噴火が発生した。26 日以降は連続的に噴火が発生し、27 日には灰白色の噴煙が火口縁上 1,500m まで上がった。

25 日及び 26 日に実施した現地調査及び聞き取り調査の結果、中岳第一火口の東側約 40km の大分県豊後大野市にかけて、南東側にあたる宮崎県五ヶ瀬町及び南側にあたる熊本県南阿蘇村から山都町にかけて、降灰を確認した。27 日に実施した聞き取り調査の結果、主に熊本市内を含む中岳第一火口西側の広い範囲で確認した。

火山性微動の振幅は、25 日 07 時頃から大きくなり、その後も消長を繰り返しながら大きい状態で継続している。

25 日及び 26 日に採取した火山灰を独立行政法人産業技術総合研究所が分析した結果、25 日に噴出した火山灰は、マグマ起源の本質噴出物が半量以上を占めていた。このことは、本格的なマグマ噴火が発生していることを示している。

中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>3)</sup>に警戒が必要である。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石<sup>3)</sup>に注意が必要である。



阿蘇山 噴煙の状況 (27 日 11 時 33 分 : 草千里遠望カメラによる)

灰白色の噴煙が火口縁上 1,500m まで上がった。

### 霧島山 (新燃岳) [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

GNSS<sup>2)</sup> 連続観測によると、新燃岳の北西数 km の地下深く (えびの高原付近) にあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011 年 12 月以降鈍化・停滞していたが、2013 年 12 月頃から伸びの傾向がみられる。

新燃岳火口直下を震源とする地震は概ね少ない状態で経過した。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性があるため、新燃岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>3)</sup>に警戒が必要である。噴火時には、風下側で火山灰だけではなく小さな噴石<sup>3)</sup> (火山れき<sup>4)</sup>) が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。降雨時には、泥石流や土石流に注意が必要である。

### 霧島山 (えびの高原 (硫黄山) 周辺) [火口周辺警報 (火口周辺危険)]

えびの高原 (硫黄山) 周辺では、火山性地震が時々発生している。

12 日及び 17 日から 18 日に行った現地調査では、硫黄山や韓国岳北側に噴気は認められなかった。赤外熱映像装置による観測では、硫黄山、韓国岳北側に熱異常域は認められなかった。

えびの高原の硫黄山から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>3)</sup>に警戒が必要である。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石<sup>3)</sup>に注意が必要である。

### 桜島 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、入山規制)]

昭和火口では、爆発的噴火<sup>5)</sup>が 30 回発生するなど、活発な噴火活動が継続した。28 日 23

時 25 分の爆発的噴火<sup>5)</sup>では、大きな噴石が 3 合目（昭和火口より 1,300～1,800m）まで達した。噴煙の高さの最高は、30 日 00 時 48 分の噴火による火口縁上 3,800m であった。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>3)</sup>及び火砕流に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石<sup>3)</sup>（火山れき<sup>4)</sup>）が遠方まで風に流されて降るため注意が必要である。爆発的噴火<sup>5)</sup>に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意が必要である。また、降雨時には土石流に注意が必要である。

### 薩摩硫黄島 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、硫黄岳火口では噴煙活動が続いており、火口内では火山灰等の噴出する可能性がある。また、火口周辺では、火山ガスに注意が必要である。

### 口永良部島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）]

口永良部島では噴火は発生しなかった。火山性地震が時々発生し、火山ガスも噴火前より多い状況で経過しており、引き続き、火山活動は高まった状態で経過している。

14 日から 15 日に実施した現地調査で、新岳火口および西側割れ目付近や、前回（10 月 7 日）の調査で新たに確認された新岳の南西斜面の噴気は、今回の観測でも確認した。赤外熱映像装置による観測では、新岳火口縁の西側、西側の割れ目付近及び南西斜面の噴気地帯で熱異常域を確認した。

新岳火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>3)</sup>に警戒が必要である。向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒が必要である。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石<sup>3)</sup>に注意が必要である。降雨

時には土石流の可能性があるので注意が必要である。

### 諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

御岳火口では、噴火が時々発生した。噴火に伴う灰白色の噴煙が最高で火口縁上 1,200m まで上がった。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、集落（御岳の南南西約 4 km）では降灰は確認されなかった。

諏訪之瀬島では、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>3)</sup>に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石<sup>3)</sup>が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

鶴見岳・伽藍岳 [噴火予報（平常）]

九重山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

雲仙岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

霧島山（御鉢） [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- 1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがある。
- 2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。
- 3) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことである。
- 4) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。
- 5) 桜島、諏訪之瀬島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または気象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としている。